

2010年度

科目名	日本文学史Ⅳ		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文2	コード	31080
開期	前期	講時	水曜日1限
		単位数	2
授業テーマ	近世中期の文学、天明文学を読む。		
目的と概要	近世前期の元禄文学は講読で西鶴を読んでいる。近世後期、化政文学は馬琴の読本に代表されるように長編が多い。中期の文学は短編が主流でバラエティーにも富んでおり、講義で紹介するにはうってつけである。また、近世文学の最も近世らしいところが、この時代の作品には集約されている。表現第一主義の凝った文学、天明文学を味読する。		
成績評価法	授業終了時の試験(80%)に、平常点(20%)を加味する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	講義中、随時紹介する。		
履修に当たっての注意・助言	200年以上前に書かれた作品を読んでも笑うことは、相当難しい。		
講義計画			
第1回	天明文学概説。それは「お江戸」で誕生した。		
第2回	続き。中野三敏氏の文章を読む。		
第3回	続き。天明文学の先駆者、平賀源内(風来山人)について。		
第4回	和歌のパロディ狂歌について。狂歌が天明文学の地盤を形成した。		
第5回	続き。四方赤良(大田南畝)の作を中心に。		
第6回	漢詩のパロディ狂詩について。寝惚先生(大田南畝)を中心に。		
第7回	今回のみ上方の作者である銅脈先生(畠中観齋)の狂詩。		
第8回	天明文学の理論的(?)指導者大田南畝について。		
第9回	天明文学の華、黄表紙について。概説。		
第10回	黄表紙『大悲千祿本』(だいひのせんろっぽん)を読む。		
第11回	続き。		
第12回	天明文学の粋、洒落本概説。寛政の改革と書肆蔦屋重三郎。		
第13回	続き。山東京伝作『傾城買四十八手』を読む。		
第14回	続き。江戸の恋愛小説人情本について。		
第15回	山東京伝と曲亭馬琴。		